

ナリヤヤヤ

難波江の蘆のかりねの

恵る

ひとよゆゑ身を尽くしてや

恋ひわたるづゑ

中一ニ三

難波の入江に生えている、芦を刈った根のひと節ほどの
短いひと夜でしたが、わたしはこれからこの身をつくして、
あなたに恋しなければならぬのでしょうか。

(百人一首 八八番 皇嘉門院別当)